

日本ボストン会報

発行者 日本ボストン会事務局 ㊟227-0045 横浜市青葉区若草台8-28 Fax 045-962-0866

会長就任に当たって

会長 茂木賢三郎

日本ボストン会会員の皆様には、お元気に輝かしき2001年をお迎えのことと存じ、お慶びを申し上げます。本年最初の会報ですから、いささか遅まきながら、まずもって新年のご挨拶を申し上げる次第であります。

昨年の総会におきまして、私は高木会長の後を受けて会長に選出されました。とても適任とは思えませんが、皆様のご支援を戴いて、一緒にこの会を一層楽しく活発なものにしたいと念願しております。

昨年中は日本ボストン会の活動に積極的にご賛同・ご参加をいただき、まことに有り難うございました。この機会に高木前会長のリーダーシップに、改めて心からの敬意と感謝の念を表します。また、当会がいろいろな楽しいイベントを企画・運営し、また会報などを発行できますのは、それぞれを担当してくださる副代表幹事をはじめ多くの皆様のご尽力の賜物であり、厚く御礼を申し上げたいと存じます。

ご高承の通り、この会は何らかの形でボストンに縁のあった「ボストン大好き人間」のグループであります。本年もまた皆様と楽しい集いが持てますことを期待しております。

ところで、申すまでもなく今年は新世紀の始まりであります。そして、一年前にあれだけのミレニアム騒ぎがあったにもかかわらず、正しくは新千年紀(ミレニアム)スタートの年でもあります。地球の自転と公転によってもたらされる一年というサイク

ルに特段の差があるわけではありませんが、人間のつくった暦という約束事の大きな節目ともなれば、人類社会の未来を展望するのに相応しい時期といえましょう。

なぜこんな気持ちになるかといえば、これも実は私とボストンとの関わりに由来するのです。私は1971年から2年間ハーバード・ビジネス・スクールで学んだのですが、73年の卒業式の式辞で当時のデレク・ボク学長が、世界人口の5%強のアメリカ人が、世界の資源の相当なシェアを消費している状況に対して、大きな疑問を投げかけたのです。

あの有名な「成長の限界」が出た直後のことですが、この本はその後経済学者の多くから悲観論との批判を受けました。しかし、地球環境は悪化の一途をたどり、いまや人々はこれを無視できなくなっております。問題の本質は、人間の活動から生ずる地球への負荷が、いろいろな徴候から見て、地球の対処能力すなわちキャパシティーを越えつつあるように思えることでしょう。

日本ボストン会にはいろいろな専門領域の方がおられます。この節目の年に、みなさんとういう問題も考える機会を持てたらと考えております。2001年が、そして新世紀が、皆様にとって素晴らしいものでありますことをお祈り申し上げ、会長就任のご挨拶といたします。

日本ボストン会イベント

観桜会(千鳥が淵)

4月8日(日)(2頁参照)

親睦ゴルフ会(泉カントリー倶楽部)

4月19日(木)(7頁参照)

10月18日(木)

美術の会(名古屋ボストン美術館訪問)

7月14日(土)(3頁参照)

歴史を飲もう会(札幌訪問)

初秋(7頁参照)

総会

11月16日(金)